

『学校力向上に関する総合実践事業』コーナーその7

小学校 「外国語科」に向けて

平成32年度新学習指導要領をもとにした教育課程が全面実施されます。それを受け、来年度から移行期となり、「特別の教科 道徳」や3,4年生の「外国語活動」、5,6年生の「外国語科」が始まります。

今回は、南が丘小学校で行っている「外国語科」に向けた研修を紹介します。

【小学校 外国語科】改訂のポイント

- 各学校段階の学びを接続させるため、国際的な基準を参考に、小・中・高等学校で一貫した聞くこと、読むこと、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことの五つの領域別の目標を設定。
- 中学年から、書くこと、話すことを中心とした外国語活動（年間35単位時間）を導入し、外国語に慣れ親しみ、学習への動機付けを高めた上で、高学年から段階的に文字を読むこと、書くことを加え、系統性をもたせる指導を行う教科（年間70単位時間）として位置付ける。



南が丘小学校では、来年度移行期間として

- 小学校3,4年生は外国語活動で15単位時間を実施。
- 小学校5,6年生は現行の外国語活動の内容に15単位時間を加え、50単位時間を実施。

小学校外国語科の授業づくり～中学校英語教師の視点から～ テーマ別研修の実施

10月30日（月）に江差北中学校 小菅すみえ主幹教諭を講師として、「小学校外国語科の授業づくり～中学校英語教師の視点から～」と題して、テーマ別研修を開催しました。

外国語活動で使えるアクティビティ（活動）やゲームや学習指導要領改訂で、どのようなことが変わるのか、何を教えるのか等、研修を深めました。

また中学校の英語教師から小学校・中学校のスムーズな接続等、多くのことを学ぶ研修会となりました。



小学校外国語科に向けた校内研修の実施

11月1日（水）に外国語科に係わる校内研修を実施しました。

夏季休業中に本校の島村 健教諭が参加した「平成29年度グローバル化に対応した英語教育指導力向上研修」の報告も含めた研修を行いました。

また、当日の校内研修には、江差中学校の野呂浩之教諭が参加していただき、5,6年生の授業見学や研修会で、貴重なご意見を頂きました。

野呂先生からは

- 小学校のローマ字で大文字を基本に学習しているが、小文字を身につけていると小学校・中学校のスムーズな接続が出来るのではないか。
- 自分の名前をローマ字で書けることも効果的か。
- 中学校ではヘボン式ローマ字を使用する。等の意見を頂きました。

